

【事業運営の理念・方針】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE（※1）開催拠点＝小倉駅新幹線口 国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進し、産業振興・国際化ならびに観光振興の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の基本理念に基づき、引き続き事業を推進していく。

4つの基本理念

MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進する。

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアルと新規開発研究・企画
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開する。

- ・MICE開催によるビジターズインダストリー（※2）の積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体、他施設との連携によるエリアマネジメント
- ・観光事業との連携

施設の付加価値を高め、利用者のニーズに合致した利用環境・サービスを提供する。

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード、ソフト両面でおもてなしの心の反映

情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する。

- ・「国際観光推進協議会」事業によるインバウンド（※3）誘致の強化
- ・北九州市の魅力向上、情報発信力の向上を図り、国内外からの観光客増に向けた仕組みづくりと活動
- ・観光客の受入態勢の強化とおもてなしの向上
- ・地域資源の活用、新たな観光資源の掘り起こしによるにぎわいの創出
- ・MICE事業との連携

【平成29年度の主な事業目標（指定管理計画（H26～30年度）の29年度目標）】

■来場者数（展示場本館・新館、会議場の3施設合計） ⇒ 77万人以上

■コンベンション誘致件数（九州規模以上） ⇒ 195件以上

※平成28年度の目標値(来場者数76万人以上、コンベンション誘致件数190件以上)を超える水準を目標

【目標達成に向けた、29年度の事業活動】

取組1. 協会主催事業の強化（見本市・展示会事業）

〈186,538千円〉

北九州市の新成長戦略や地方創生総合戦略等、国・県の産業政策の動向を踏まえながら、  
 (1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実  
 (2) 新事業の探索・開発につながるインキュベーション（※4）型事業の開発・推進  
 (3) にぎわい創出型事業の開発・推進  
 を柱に、協会の主催事業の強化に取り組む。

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成29年度は「エコテクノ2017」など、9事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

なお、「西日本インポートフェア&食メッセ」は、平成28年度に昨今の輸入品をめぐる商取引と事業環境の変化を踏まえて調査、企画を見直した。新たに「ワールドマーケット&ツーリズム2017」とし、体験型のコンセプトを盛り込んだ世界雑貨と観光イベントとして開催する。

《平成29年度開催の事業（新規事業を含む）》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
ワールドマーケット&ツーリズム2017	5月3日 ～7日	50,000人	250社・団体
西日本製造技術イノベーション2017	6月21日 ～23日	20,000人	60社・団体 30社・団体
第43回ふくおか産業技術振興展			
第39回西日本陶磁器フェスタ 第24回日本陶芸展 九州展	9月14日 ～18日	50,000人	200社
エコテクノ2017 (地球環境ソリューション展)	10月11日 ～13日(予定)	30,000人	110社・団体
エコテクノ2017 (エネルギー先端技術展)			100社・団体
エコベンチャー・メッセ2017			25社・団体
中小企業テクノフェアin九州2017			65社・団体
P.P.C.2017 第19回西日本国際福祉機器展	11月9日 ～11日	30,000人	130社・団体
合計	9事業	180,000人	1,120社・団体

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の企画充実

→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器をテーマとする各種企画展の併設や、恒例の「ロールケーキフェスタ」を同時開催。また、ビエンナーレ（※5）開催となる「日本陶芸展 九州展」（共催：毎日新聞社）を同時開催し、商取引の促進や地域のにぎわいづくりを目指す。

■ 『エコテクノ』の強化

→主催団体で連携を強化し、営業活動に取り組む。水ビジネスやバイオマス等の分野に視点を広げるほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として、魅力向上に努める。

■ ウェルディングフォーラム西日本（仮称）の誘致開催

→29年度は、西日本製造技術イノベーションに、（一社）日本溶接協会、産報出版（株）が開催する溶接関連事業を誘致連携して開催する。広報ツールの相互掲載の検討、出展内容、セミナー、シンポジウムのテーマ性を相互に有効なものとし、連携開催の相乗効果を発揮できるよう検討していく。

《国際ビジネスの推進》

■ 韓国釜山広域市BEXCOとの連携

→27年度に締結したMOUに基づき、相互出展の拡大と海外展示会への出展、展示会の開催調査、新規事業の開発に取り組む。

(2) インキュベーション型事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発を行う。またIoT（※6）やロボット関連、医工連携など様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行い、新規展示会の開催ニーズを探索する。

《新規事業の展望》

■ 『ワールドマーケット&ツーリズム2017』の開催

→観光関連企業・団体及びメディアと協力し、「旅」・「食」・「インポート」を中心とした企画に基づき体験的要素を盛り込み、小倉駅新幹線口におけるゴールデンウィークの賑わい創出と観光産業振興による九州経済の活性化を目指して開催する。



ワールドマーケット&ツーリズム2017

■ 『ロボット総合産業フェア（仮称）』の開催

→今後の西日本製造技術イノベーションにて、北九州市の進める産業用ロボット導入支援事業に沿った企画コーナーを発展・拡大させ、民生用ロボットも取り込んだロボット総合産業展への展開を図る。

■ 『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催

→国の地方創生総合戦略や熊本地震等の復興支援事業など地域のニーズにあわせて新規企画を開催し、主催事業との相乗効果を図る。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

《夏休み・冬休みのにぎわいづくり事業》

平成28年度は、夏休み『プラレール博』『THE ICE』冬休み『ふしぎな科学の遊園地（仮称）』を開催。



夏休み（約6万人）

プラレール博

THE ICE

取組2. コンベンション誘致の強化（会議・大会等）

〈82,022千円〉

他都市との誘致競争が激化する中、国際・全国規模の学会・大会などを数多く誘致し、平成29年度の目標（年間195件以上）を達成していくため、

- (1) グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化
- (2) 誘致マーケティングについての取組み
- (3) 誘致セールスについての取組み
- (4) 開催支援への取組み

などを柱に、積極的に、コンベンション誘致に取り組む。

(1) グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化

ICC A（※7）への加入により、北九州開催に適した会議の情報収集が可能となり、的を絞った営業活動を行うことで国際会議誘致を強化する。また、「北九州市グローバルMICE推進協議会」を設立したことにより地元ステークホルダー（※8）との連携促進体制を強化し、海外見本市・商談会への参加や、英語版ホームページ等海外向けPRツールの充実を図る。

(2) 誘致マーケティングについての取組み

4大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州商工会議所との連携協定を活用した誘致活動を行うほか、JNTO（※9）からの情報収集、IME（※10）への参加を行うなどでマーケティング活動に取り組む。

### (3) 誘致セールスについての取組み

国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用の促進、主催事業にマッチした誘致営業、MICE開催助成金を活用した営業、インセンティブツアー(※11)やスポーツ関係の誘致等に取り組む。

### (4) 開催支援への取組み

会議支援制度の拡充、新たなユニークベニュー(※12)の開発、産業観光などのエクスカージョン(※13)の活用、観光事業部との連携等を行い、北九州市のPRを図る。  
また、増加する国際会議に対応するため他ボランティア団体との連携、コンベンションボランティア制度などきめ細かな誘致支援活動を行う。

取組3. 貸館利用者の誘致・営業の強化	〈16,598千円〉
貸館利用者を拡大し、施設稼働率の向上、利用者の増加を図っていくため、 (1) リピーターの定着化及び復活 (2) 新規利用者の開拓 (3) 「にぎわいづくり・営業推進本部」の機能強化 (4) 「にぎわいイベント」への取組 (5) 「大規模イベント」開催支援 を柱に、誘致営業に取り組む。	

#### (1) リピーターの定着化及び復活

当協会の展示場施設の収益の安定を図るために、重要なリピーターの施設利用の定着化や復活開催を推進させる。また、特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努める。

#### (2) 新規利用者の開拓

新たな利用形態を開拓するため、地元の経済波及効果を高め、施設の知名度の向上につながるコンサートやゲーム大会のほか、試験日程が安定している資格検定試験や入学試験などを中心に営業活動を展開する。



#### (3) 「にぎわいづくり・営業推進本部」の機能強化

従来からある「営業推進本部」の機能を強化することを目的として、平成28年7月に営業課が、北九州国際会議場1F事務所に移転し、サービス課と協働で質の高い貸館サービスを提供している。情報共有を進めることで、CS向上につなげていく。

#### (4) 「にぎわいイベント」への取組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成28年度には、夏休みに開催した「プラレール博 in KITAKYUSHU」について

は、2年ぶり2回目の開催であったが、1日あたりの動員数は前回は上回った。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件の整備、コンテンツの選定を十分に見極め、ファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

### (5) 「大規模イベント」開催支援

規模が大きく、話題性が強い、多数の集客が見込める大規模イベントの開催支援を積極的に行う。

取組4. 広報・宣伝、地域連携	〈9,908千円〉
-----------------	-----------

#### (1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

#### (2) 地域連携(小倉駅新幹線口振興連絡会などとの連携)

小倉駅新幹線口の「にぎわいづくり」と魅力アップに貢献していくため、「あるあるCity」「北九州スタジアム」などと連携したイベントの開催の検討、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

取組5. お客様満足度の向上(管理・運営)	〈668,381千円〉
-----------------------	-------------

#### (1) サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。インターネット接続環境に関しては、Wifiフリースポットの再整備を含め、学会等の利用者ニーズに沿った環境づくりに努める。また、北九州スタジアムとの連携を図る上で、当施設でできるハード・ソフト面でのサービスメニュー等、来場者への満足度向上に繋がるような利用方法を検討する。

#### (2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適切に対応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。引き続き個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。

#### (3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

#### (4) 展示場本館の対応等

築40年を迎え、経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的、効果的な修繕計画を検討する。また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

#### (5) 西日本総合展示場開館40周年記念事業

平成29年に西日本総合展示場本館が開館40周年を迎えることから記念事業を行い、施設利用者をはじめ関係機関への感謝の意を伝えるとともに、今後の更なる利用促進につなげる。具体的には、記念式典や著名人を講師に招いた講演会の開催のほか、40周年記念ロゴを作成し、誘致営業や主催事業で活用する。

### 取組6. 観光客の誘致及び滞在化促進

〈16,153千円〉

#### (1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州市への観光客が増加している東アジアを中心とした旅行社へのセールスを強化するとともに、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。

また、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、北九州市での祭り・イベントへの参加を促すことで、都市間交流による観光客誘致に繋げていく。



#### (2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程等の実施状況等の調査や旅行社教育旅行担当者へのセールスを実施する。

また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため修学旅行ガイドの養成や新たな修学旅行受け入れのメニュー作りなども行い、教育関係者を招いたFAMツアー(※14)なども企画していく。

#### (3) 助成事業

北九州市観光振興プラン等に掲げる、観光客数の目標数値 平成31年 2,460万人(うちインバウンド26万人)を見据えて、国内向け旅行商品企画に対する助成や、海外旅行商品企画に対する助成を行い、国内外旅行者の誘客を促進する。

また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し補助を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

### 取組7. 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

〈3,988千円〉

北九州市の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や、北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ!北九州」の運営、観光カレンダーや

観光絵葉書等の観光関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookなどのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、観光客のニーズに合った観光素材のPR活動を強化していく。

### 取組8. 観光に関する人材の育成及び啓発

〈4,056千円〉

外国人観光客の増加に対応し、受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーを実施するなど、観光マインド育成事業を行う。

また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学を開講し、観光マインドの醸成を推進する。

### 取組9. 観光に関する施設の管理・運営(公益)

〈8,216千円〉

北九州市、JR九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと当協会が組織した「北九州市観光案内所運営協議会」を中心に、官民一体となった観光案内所のサービス強化を図る。

また、新たな観光施設の管理・運営の検討に着手する。

### 取組10. 特産品の紹介・宣伝

〈24,690千円〉

特産品紹介パンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行う他、北九州市の特産品をホームページで紹介するとともに、「北九州観光市場」「楽天市場」などの通販サイトで購入できるシステムを管理運営し、販売促進に努める。

また、市内外で開催されるイベントや観光物産展のほか、MICE事業との連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場で臨時売店を出店し、北九州市の特産品やお土産を販売していく。



### 取組11. 観光に関する施設の管理・運営(収益)

〈120,595千円〉

門司港レトロ地区で運営する売店「よりみち」において、新商品や話題の商品等を考慮した品ぞろえを行い、売上の増加を目指すほか、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営に努める。

また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについて、委託業者との連携を密にし、新たな顧客開拓に繋がる営業活動を行うことで収益増を目指す。なお、平成30年度からの委託先選定に向けて、より成果を反映させた委託契約のあり方を検討する。